

市長が行く

動物愛護と裏腹に



茂原市長 田中 豊彦



日曜夜のNHKの番組「ダー
ワインが来た!」を毎回楽し
みに見ています。自然界の生

き物たちの生態は本当に様々
で、生きていくため、種を保
存していくための必死の戦い
にいつも感動します。この地
球は、人間だけが生きている
場所ではないことを、驕つて
はいけないことを改めて感じ
させてくれることが多いです。

地球温暖化の影響か、今日
本中で、鳥獣被害が多く報告
されています。この茂原でも
多くの被害が起きています。
イノシシ、鹿、ハクビシン、
アライグマ、カラスなど、畑
の農作物が荒らされたり、時
には人が襲われることもあります。
動物たちにとって、自分たちの生態系を犯した人
間が悪いという言い分がある
でしょうが、行政としては、被
害を食べ止めなければなりません。

そこで茂原市では、警備会
社のアルソックと提携し、イ

ノシシ等の捕獲に努めてきま
した。猟友会皆さんにも協
力をお願いし、年間約200

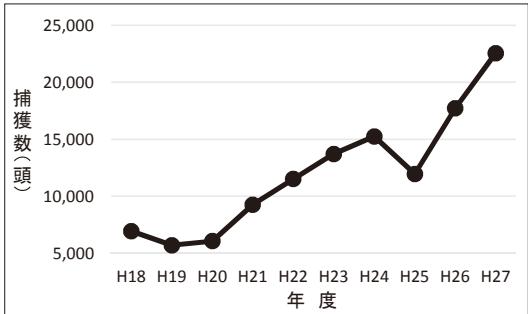
頭のイノシシを捕獲し、殺処
分しました。また、ハクビシ
ンやアライグマもそれ以上の
数を捕獲ましたが、被害が
減らず、困っています。カラ
スの巣の撤去なども、法律が
足かせとなり、なかなか実行
できません。イノシシや鹿は
昔から食用にもなつており、
ジビエ料理で町おこしという
意見もでましたが、そこまで
の数は確保できません。

農家の皆さんにとっての被
害は深刻で、それぞれに様々
な対策をしていらっしゃいま
すが、焼け石に水といったと
ころが現状です。

さらにここへきて、アル
ソックがイノシシ等の捕獲に
関しては手を引くことになり
ました。また猟友会等も高齡
化による会員の減少の中、か
なり無理を言って協力してい
ただいていることもあり、今

後の対策に頭を痛めていると
ころです。

こういった野生動物の捕獲
や殺処分は、動物愛護の精神
のもとに生きている方々から
はお叱りを受けそうですが、
私たち人間も生きていくため
に必死で戦わなくてはなりません。
自然環境を破壊しないこと
とのさじ加減も考えると、な
かなか難しいことではあります
が。



▲千葉県のイノシシ捕獲数の推移